

佐野川水系の河川整備の再々評価調書

令和5年7月3日(月)
令和5年度 第1回
大阪府河川整備審議会

資料
1-1

1 事業概要

事業名	二級河川 佐野川水系 河川改修事業
担当部署	都市整備部 河川室 河川整備課 地域河川・ダムグループ (連絡先 06-6944-6039)
事業箇所	大阪府泉佐野市、熊取町地内 佐野川、住吉川、雨山川 流域面積 10.53km ²
再々評価理由	再評価後5年を経過した時点で継続中
事業目的	佐野川水系では、時間雨量50ミリ程度の降雨による床下浸水を防ぐとともに事業効率を踏まえ、時間雨量65ミリ程度の降雨による床上浸水を防ぐことを当面の治水目標として河川改修事業を実施し、治水安全度の向上を図る。
事業内容	<p>【河川整備計画】 改修延長 佐野川：L＝約0.70km 住吉川：L＝約2.35km 雨山川：L＝約0.41km 整備対象区間（河道改修） 佐野川：国道26号～中庄橋（1.8km～2.5km） 住吉川：向田橋～桐方橋下流（3.4km～4.6km） 桐方橋上流～防災調節池（5.4km～6.0km、6.8km～7.4km） 雨山川：JR阪和線～無名橋上流（3.4km～3.8km） 整備対象区間（貯留施設） 住吉川：向田橋上流 雨山川：JR阪和線上流</p>
事業費	<p>全体事業費 : 約82.8億円 (約72.0億円) 投資済事業費 (令和4年度末) : 約13.9億円</p> <p>【内 訳】 工事費 : 約66.2億円 (約54.7億円) うち投資済事業費 : 約12.4億円 用地費 : 約14.6億円 (約16.8億円) うち投資済事業費 : 約0.6億円 調査費 : 約2.0億円 (約0.5億円) うち投資済事業費 : 約0.9億円</p>
事業費の変更理由	<p>【事業費変動要因の状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既存調節池の活用により、新規調節池にかかる事業費が減少 JR阪和線横断部の整備手法を精査し、線路近接部分の工法を変更したことによる増額 社会的要因(人件費や消費税等の上昇)による事業費の増加
維持管理費	約0.11億円/年 (治水経済調査要綱に基づく事業費の0.5%/年)

2 事業の必要性等に関する視点

	前回評価時点 H30	再々評価時点 R5	変動要因の分析
事業を巡る社会 経済情勢等の変化	<p>【洪水発生時の影響】</p> <p>浸水想定面積 : 約26ha</p> <p>浸水家屋 : 約520戸</p> <p>※河川整備基本方針で定められた100年に1回の降雨規模の浸水面積・浸水家屋(世帯)</p> <p>社会情勢について、下記のとおり人口や世帯数等微減であるため、大きな変化はないと考えられる。 (泉佐野市・熊取町人口等の動向)</p> <p>・人口 H22比0.3%減 (H22: 145,870人 H27: 145,401人)</p> <p>・世帯数 H22比5.8%増 (H22: 54,852世帯 H27: 58,049世帯)</p> <p>・事業所数 H22比3.6%減 (H22: 6,222所 H27: 5,995所)</p> <p>・就業者数 H22比2.0%減 (H22: 59,894人 H27: 58,682人)</p> <p>※人口、世帯数は国勢調査、その他は大阪府統計年鑑より</p>	<p>【洪水発生時の影響】</p> <p>浸水想定面積 : 約20ha</p> <p>浸水家屋 : 約380戸</p> <p>※河川整備計画で定められた30年に1回の降雨規模の浸水面積・浸水家屋(世帯)</p> <p>社会情勢について、下記のとおり人口や世帯数等微減であるため、大きな変化はないと考えられる。 (泉佐野市・熊取町人口等の動向)</p> <p>・人口 H27比1.0%減 (H27: 145,401人 R2: 143,894人)</p> <p>・世帯数 H27比5.3%増 (H27: 58,049世帯 R2: 61,120世帯)</p> <p>・事業所数 H27比1.0%減 (H27: 5,995所 R2: 5,933所)</p> <p>・就業者数 H27比7.4%増 (H27: 58,682人 R2: 63,023人)</p> <p>※人口、世帯数は国勢調査、その他は大阪府統計年鑑より</p>	
	地元等の 協力体制等	<p>○流域治水の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 泉南地域水防災連絡協議会で「流域治水プロジェクト」を令和3年度に策定。進捗管理や情報提供を毎年行い、対策内容の充実・強化やフォローアップを実施しながら、計画的に流域治水を推進していく。 ○地域住民が中心となった団体が引き続き活動している。 ・河川の清掃や除草、河川クリーン作戦にボランティアとして参加しての河川愛護活動。 ・水質改善やクリーンアップゴミ清掃、親水公園の除草作業。 	

	前回評価時点 H30	再々評価時点 R5	変動要因の分析
事業の投資効果 〈費用便益分析〉 または 〈代替指標〉	<ul style="list-style-type: none"> ・総便益／総費用 (B/C) =3.3 便益総額 B =194 億円 総費用 C = 59 億円 建設費 53 億円 維持管理費 6 億円 <p>【算定根拠】 治水経済調査マニュアル (案) H17.4 各種資産評価単価及びびテプレート H30.2 改正</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・総便益／総費用 (B/C) =2.2 便益総額 B =168 億円 総費用 C = 78 億円 建設費 70 億円 維持管理費 8 億円 <p>【算定根拠】 治水経済調査マニュアル (案) R2.4 各種資産評価単価及びびテプレート R5.6 改正</p>	治水経済調査マニュアル(案)の改訂による被害額算出方法の変更
事業効果の定性的分析 (安全・安心、活力、快適性等の有効性)	<p>【安全・安心】</p> <p>○時間雨量 50 ミリ程度の降雨による床下浸水を防ぐとともに事業効率を踏まえ、時間雨量 65 ミリ程度の降雨による床上浸水を防ぐことを目標としている。</p> <p>【活力】</p> <p>○災害リスクの理解を深めるため、地域の方々と手作りハザードマップ作成に向けたワークショップを開催。</p> <p>【快適性】</p> <p>○地域の歴史、文化、自然環境に配慮するとともに、周囲の景観と調和のとれた貴重なオープンスペースとして、ゆとり・やすらぎの親水空間を提供。</p>		
事業の進捗状況 〈経過〉 ①事業採択年度 ②事業着工年度 ③完成予定年度	<p>①2013 年度 (平成 25 年度)</p> <p>②2013 年度 (平成 25 年度)</p> <p>③2038 年度 (令和 20 年度)</p>	<p>①2013 年度 (平成 25 年度)</p> <p>②2013 年度 (平成 25 年度)</p> <p>③2038 年度 (令和 20 年度)</p>	
〈進捗状況〉	全体：14%	全体：17%	
	※事業費ベース	※事業費ベース	
事業の必要性等に関する視点	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化の進展並びに気候変動など新たに社会情勢が変化する中においても、佐野川水系では前回評価から 5 年間で浸水家屋数こそ減少しているものの、いまだに浸水被害を受ける家屋は残っており、自然災害に対する安全・安心の確保に向けた事業の必要性が変わらないこと、流域の中上流域では、洪水リスクがあること、地元市町からも河川改修事業等の進捗を望まれていること等より、事業の必要性に変わりはない。 ・現時点で再度、佐野川、住吉川、雨山川の費用対効果を算出したところ、B/C は 2.2 であり、河川整備の費用的有効性も確認できる。 		

3 事業の進捗の見込みの視点

事業の進捗の見込みの視点	<ul style="list-style-type: none"> ・佐野川水系河川整備計画 (H28.5 策定) 及び、大阪府都市整備中期計画 (案) (R3.3 改訂) に位置付けて事業を進めており、R4 年度末で、事業の進捗は 17%程度である。また、事業の完了予定年度は前回評価から変わらず R20 年度と予定通り進捗している。これまでも河川改修や既存調節池の改良を推進し、治水安全度の向上に努めている。
--------------	--

4 コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点

コスト縮減や代替案立案等の可能性の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・残土の工事間流用等による更なるコスト縮減や、効果的且つ効率的な対策として BIM/CIM や新たな ICT 技術といった建設DXの導入や活用の可否について引き続き検討を行う。
---------------------	--

5 特記事項

自然環境への影響とその対策	<p><u>多様な生物の生息について</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・佐野川の住吉橋周辺では、ボラ、マハゼ、メナダなどの汽水魚や、回遊魚であるウナギといった重要種 (大阪府 RDB2014 に記載されている魚類) が確認される。 ・重要種であるウナギが確認されており、貴重な自然環境を保全していく。 <p><u>多様な生物の生息・生育環境を保全するための対策 (水質改善)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政指導や下水道施設等による水質改善とともに、地域住民、学校、NPO 等と連携し、生活排水による河川への負荷軽減に向けた環境教育・学習の推進、および啓発活動等を進めたことにより、水質は維持され、また生物の生息・生育環境は維持できている。
前回評価時の意見具申と府の対応	<p>(平成 30 年度大阪府河川整備審議会による審議)</p> <p>「平成 30 年度大阪府河川整備審議会」の審議をもって事業再評価とし、本審議会において了承を得た。</p>
上位計画等	<p>大阪府都市整備中期計画 (R3.3)</p> <p>佐野川水系河川整備基本方針 (H28.2)</p> <p>佐野川水系河川整備計画 (変更) (H28.5)</p>
その他特記事項	<p>(河川防災情報の提供)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市町による洪水ハザードマップの作成。 ・現況での洪水はん濫・浸水の危険性に対する地域住民の理解を促進するため、佐野川水系の洪水リスク表示図を開示している。 ・佐野川の佐野川橋に水位計・河川カメラを設置し、河川の洪水リスクや現況水位とともに映像をインターネットで公開している。 ・大阪府などでは、河川のはん濫や浸水に対して、流域関係市町とホットラインを構築し、府民が的確に避難行動を取れるよう情報提供。

6 対応方針（案）

対応方針（案）	<p>○継続</p> <p><判断の理由></p> <ul style="list-style-type: none">・高齢化の進展並びに気候変動など新たに社会情勢が変化する中においても、佐野川水系では前回評価から5年間で浸水家屋数こそ減少しているものの、いまだに浸水被害を受ける家屋は残っており、自然災害に対する安全・安心の確保に向けた事業の必要性が変わらないこと、流域の中上流域では、洪水リスクがあること、地元市町からも河川改修事業等の進捗を望まれていること等より、事業の必要性に変わりはない。また、現時点で再度、佐野川、住吉川、雨山川の費用対効果を算出したところ、B/Cは2.2であり、河川整備の費用的有効性も確認できる。・佐野川水系河川整備計画（H28.5策定）及び、大阪府都市整備中期計画（案）（R3.3改訂）に位置付けて事業を進めており、R4年度末で、事業の進捗は17%程度である。また、事業の完了予定年度は前回評価から変わらずR20年度と予定通り進捗している。これまでも河川改修や既存調節池の改良を推進し、治水安全度の向上に努めている。・残土の工事間流用等による更なるコスト縮減や、効果的且つ効率的な対策として BIM/CIM や新たな ICT 技術といった建設DXの導入や活用の可否について引き続き検討を行う。 <p>以上の理由より、事業を継続</p>
---------	---

令和5年度第1回大阪府河川整備審議会【資料1-1】の修正について

- 令和5年度 第1回 大阪府河川整備審議会【資料1-1 佐野川水系の河川整備の再々評価調書】におきまして、委員の意見を受けて、以下のとおり修正を行いました。

対照表

	修正前	修正後
ページ	2ページ	2ページ
修正箇所	<p>事業の必要性等に関する視点</p> <ul style="list-style-type: none">・高齢化の進展並びに気候変動など新たに社会情勢が変化する中においても、自然災害に対する安全・安心の確保に向けた事業の必要性が高まっていること、流域の中上流域では、洪水リスクがあること、地元市町からも河川改修事業等の進捗を望まれていること等より、事業の必要性に変わりはない。 <p>・現時点で再度、費用対効果を算出したところ、B/Cは2.2であり、事業実施の妥当性を有することが確認できる。</p>	<p>事業の必要性等に関する視点</p> <ul style="list-style-type: none">・高齢化の進展並びに気候変動など新たに社会情勢が変化する中においても、佐野川水系では前回評価から5年間で浸水家屋数こそ減少しているものの、いまだに浸水被害を受ける家屋は残っており、自然災害に対する安全・安心の確保に向けた事業の必要性が変わらないこと、流域の中上流域では、洪水リスクがあること、地元市町からも河川改修事業等の進捗を望まれていること等より、事業の必要性に変わりはない。 <p>・現時点で再度、佐野川、住吉川、雨山川の費用対効果を算出したところ、B/Cは2.2であり、河川整備の費用的有効性も確認できる。</p>

対照表

	修正前	修正後
ページ	2ページ	2ページ
修正箇所	<p>事業の進捗の見込みの視点</p> <p>・佐野川水系河川整備計画(H28.5策定)及び、大阪府都市整備中期計画(案)(R3.3改訂)に位置付けて事業を進めており、R4年度末で、事業の進捗は17%程度である。これまでも河川改修や既存調節池の改良を推進し、治水安全度の向上に努めている。</p>	<p>事業の進捗の見込みの視点</p> <p>・佐野川水系河川整備計画(H28.5策定)及び、大阪府都市整備中期計画(案)(R3.3改訂)に位置付けて事業を進めており、R4年度末で、事業の進捗は17%程度である。また、事業の完了予定年度は前回評価から変わらずR20年度と予定通り進捗している。これまでも河川改修や既存調節池の改良を推進し、治水安全度の向上に努めている。</p>
修正箇所	<p>自然環境への影響とその対策 多様な生物の生息について</p> <p>・佐野川の住吉橋周辺では、ボラ、マハゼ、メナダなどの汽水魚や、回遊魚であるウナギといった重要種が確認される。</p> <p>...</p>	<p>自然環境への影響とその対策 多様な生物の生息について</p> <p>・佐野川の住吉橋周辺では、ボラ、マハゼ、メナダなどの汽水魚や、回遊魚であるウナギといった重要種(大阪府RDB2014に記載されている魚類)が確認される。</p> <p>...</p>

対照表

	修正前	修正後
ページ	3ページ	3ページ
修正箇所	<p>対応方針(案) ○継続 ＜判断の理由＞ ・高齢化の進展並びに気候変動など新たに社会情勢が変化 する中においても、自然災害に対する安全・安心の確保に向 けた事業の必要性が高まっていること、流域の中上流域で は、洪水リスクがあること、地元市町からも河川改修事業等 の進捗を望まれていること等より、事業の必要性に変わり はない。また、現時点で再度、佐野川、住吉川、雨山川の費用 対効果を算出したところ、B/Cは2.2であり、事業実施の妥当 性を有することが確認できる。</p> <p>・佐野川水系河川整備計画(H28.5策定)及び、大阪府都市 整備中期計画(案)(R3.3改訂)に位置付けて事業を進めて おり、R4年度末で、事業の進捗は17%程度である。これま でも河川改修や既存調節池の改良を推進し、治水安全度の向 上に努めている。 …</p> <p>以上の理由により、事業の継続は妥当</p>	<p>対応方針(案) ○継続 ＜判断の理由＞ ・高齢化の進展並びに気候変動など新たに社会情勢が変 化する中においても、佐野川水系では前回評価から5年間 で浸水家屋数こそ減少しているものの、いまだに浸水被害 を受ける家屋は残っており、自然災害に対する安全・安心 の確保に向けた事業の必要性が変わらないこと、流域の中 上流域では、洪水リスクがあること、地元市町からも河川改 修事業等の進捗を望まれていること等より、事業の必要性 に変わりはない。また、現時点で再度、佐野川、住吉川、雨 山川の費用対効果を算出したところ、B/Cは2.2であり、河 川整備の費用的有効性も確認できる。</p> <p>・佐野川水系河川整備計画(H28.5策定)及び、大阪府都市 整備中期計画(案)(R3.3改訂)に位置付けて事業を進めて おり、R4年度末で、事業の進捗は17%程度である。また、 事業の完了予定年度は前回評価から変わらずR20年度と 予定通り進捗している。これまでも河川改修や既存調節池 の改良を推進し、治水安全度の向上に努めている。 …</p> <p>以上の理由により、事業を継続</p>